

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会  
(事務局：JA全農ふくれん営農総合課)

[ 緊急 ]

## 営農情報 5

# 台風 15 号の接近に伴う技術対策について

気象庁によると、熱帯低気圧が発達して台風 15 号となり九州に近づく見込みです。

9月4日頃に九州北部に最接近することが予想されておりますので、下記の事項を参考に、技術対策の実施をお願いします。

### 台風時における留意事項

ほ場・農業用施設の見回りは、気象情報を十分に確認し、大雨や強風がおさまるまでは行わないで下さい。また、大雨等がおさまった後の見回りにおいても、増水した水路など危険な場所には近づかず、人命を最優先に事故防止の徹底に努めてください。

### 1 台風に伴う技術対策

#### 水稻

- (1) 収穫期となっている「夢つくし」は、可能な限り台風襲来前に収穫を行う。  
台風通過後に収穫する場合は、落水管理とし、通過後速やかに収穫する。
- (2) 収穫前1週間程度のほ場は落水処理とし、成熟期を迎えたら速やかに収穫する。
- (3) 収穫まで1週間以上のほ場は、倒伏及び稲体表面からの異常蒸散による「急性萎凋症状」の発生を防ぐため、深水管理を行う。台風通過後の数日間は、ほ場の水を切らさない程度に、浅水管理とする。
- (4) 成熟期に近いほ場で倒伏した場合は、台風通過後早急に落水し、穂発芽を防止する。
- (5) 倒伏が発生した場合、高水分籾が荷受けされるため、共乾施設は乾燥時間がかかることを想定し荷受けを行う。
- (6) 冠水した場合には、早急に排水を図り、冠水時間を短くする。排水後は、できるだけ新しい酸素を含んだ用水との入れ替えを実施する。

#### 大豆

- (1) 台風襲来前に、雨による停滞水を出来るだけ早くほ場外に排出するため、畦溝や排水溝の整備を行う。
- (2) 台風通過後、大雨でほ場内に停滞水がある場合は、本暗きよの栓を開けて排水し、再度、乾燥防止のために栓を閉める。
- (3) 表面に停滞水がない場合は、乾燥防止のために本暗きよの栓は閉めたままにする。
- (4) 台風通過後に、再度、畦溝や排水溝の点検・整備を行う。
- (5) 葉焼病の発生に留意し、発生に応じ対策をとる。